

「最新の知見」で伊方原発の徹底検証を求める意見書

伊方原発の真下に断層等のあることを地元愛媛新聞2012年12月31日付が報じています。原子力規制委員会による活断層調査が行われていることがニュースで報じられますが、伊方原発においても現地調査をしていただくよう強く要請します。

原子力規制委員会は、「最新の知見」に学び職務遂行する旨を記しており、このことは規制委員会発足以前からも原子力行政の根本に据えられていたものです。福島原発事故の深刻な事態が今も続く中、「最新の知見」で厳格に規制することがいっそう強く求められています。

新たな知見で注目するのは、スロークエイク（深部低周波地震）が3・11の巨大地震に直結していたことを東北大学が記録した事実です。伊方原発のある佐田岬半島直下にもスロークエイクがあり、いずれもNHKのメガクエイクシリーズで報じられました。巨大地震との関連について徹底調査を求めます。

東京電力が分析可能な形で公開していなかった「過渡現象記録装置」（飛行機のフライトレコーダに相当）のデータが昨年夏にようやく一部全面公開されました。公開を求めてきた木村俊雄さん（元東電の原子炉技術者で原子炉データ解析等に從事していた）による解析が、岩波書店の「科学」11月号に掲載されています。地震から約1分半で原子炉冷却水の重要な流れが止まったことが指摘されています。このこともまさに「最新の知見」であるはずで、徹底検証を求めます。

原発にダメージの大きい短周期の地震波が、長時間続いたというのが東北地方太平洋沖地震の特徴でした。総務省消防庁の「東日本大震災記録集」の第2章2-3には、変電所などがダメージを受けたことが記されています。伊方原発は中央構造線活断層帯が直前にあり、震源からきわめて近くなる可能性が指摘されているだけに深刻で重大な情報です。連動等による地震動が重なり、長い時間の揺れとなることの徹底解析も行ってください。

四国電力の「地震動評価」を検証し続けてきた長沢啓行氏（耐震計算）が、四国電力の「過小評価」を指摘する「意見書」を公表したことは重要です。具体的に計算結果を示しながらの指摘について、ヒアリングも含め徹底的に調査し分析してください。岡村眞氏（地質地震学）、都司嘉宣氏（地震学）の指摘についても同様に真剣に受けとめて調査分析をしていただくよう求めます。

以上、地方自治法第99条の規定にもとづき、意見書を提出します。

平成26年3月26日

徳島県那賀町議会議長 株田 茂

原子力規制委員会 委員長 田中俊一 様